

令和6年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

特21

福岡県立直方特別支援学校

自己評価

学校関係者評価

Table with 2 main columns: 学校運営計画(4月) and 評価(総合). It details school operation goals and specific objectives across various categories like safety, research, and staff development.

Table with 2 main columns: 評価(総合) and 自己評価は. It provides a summary evaluation grade (A) and lists criteria from A to D.

Table with 5 columns: 評価項目, 具体的目標, 具体的方策, 評価(3月), 次年度の主な課題. It details evaluation items, goals, strategies, current ratings, and next year's main tasks.

Table with 2 columns: 項目ごとの評価 and 学校関係者評価委員会からの意見. It shows item-specific evaluations and committee feedback.

人権・同和教育	○幼児児童生徒の自己理解や他者理解を深めるとともに、自尊感情や障がい認識を育む。また、職員研修の充実及び関係機関との連携を図り、共生社会の形成を目指す。	○系統的な人権学習が行えるよう、小学部、中学部、高等部の人権学習担当者で協議する場を設定する。	A	B	B	・人権学習の系統性を共通理解しながら進め、学習の充実を図るために、「個別の人権課題に関する人権教育指導者用引き」(福岡県教育委員会)を基に、今年度作成した体系化表をさらに検討・改善する。 ・夏季休業中の職員研修会は、「障がい」を有する子供たちに接するときの姿勢を中心に、外部講師を招聘して計画、実施する。
		○外部講師を招聘し、「当事者の話を聴く」職員研修会を計画、実施する。各部門等の取組についての実践交流会や、校外研修の内容や感想等の広報誌への掲載で、職員全体で学び合う機会を設ける。	B			
		○本校の取組をホームページ等で発信したり、地域の実践交流会等でレポート報告したりする等、保護者や地域、関係機関との連携を図る。	B			
情報教育	○個人情報をはじめとする情報管理とICT機器の活用を両立させ、機器活用がしやすい環境を整備し、授業への活用を推進する。	○学部のニーズに応じてICT機器等の活用に関する学習会を計画・実施し、ICTの活用推進を図る。	B	B	B	・学習会の希望調査を、全体の集約から学部単位の集約にすることで、よりニーズに応えることができる学習会の企画に努める。 ・今年度のHPの新システム移行で、学部ごとで見られた更新の差の解消に向けて、手続きの見直しを図り、計画的に更新できるようにする。
		○情報セキュリティマニュアルを更新し、マニュアルに基づく情報管理体制を整える。	A			
		○HPの更新を計画的に行い、情報発信に努める。	B			
庶務	○PTA活動活性化の推進に努める。 ○同窓会行事の充実を努める。	○PTA役員会を月に1度実施し、安全なPTA活動のあり方を考える。	A	A	A	・今年度、要望があり、PTA役員による「避難訓練や防災設備の見学」を企画した。今後も、役員会における意見の反映に努める。 ・PTA新聞「かがやき」については、今年度、見直した作成マニュアルに、起案スケジュールを加え、よりスムーズに作成できるようにする。
		○PTA通信「かがやき」の作成手順を見直し、個人情報のチェックを確実に行う。	B			
		○安全に配慮しつつ、同窓会行事を充実させる。	A			
	○互助会福祉事業の推進に努める。 ○業務の効率化を図る。	○地区の互助会事務局として直轄地区の福祉事業の取りまとめを行う。	A	A	A	・今年度の地区の福祉事業の担当校としての取りまとめの経験を生かし、校内の福祉事業の充実を図る。 ・各業務のマニュアルを見直し、効率的に行えるように検討する。
	○互助会の校内福祉事業を充実させる。	A				
	○業務を効率化させるため、必要に応じてマニュアルの見直しを行う。	B				
幼児児童生徒指導	○諸問題に対応するための支援方法や情報を全職員で共通理解する。 ○児童生徒会活動に主体的に参加できるように、各部門・各学部間の連携を図る。	○問題行動や長期欠席・不登校の対処方法や解決に向けて、ケース会議を設定し、当該学年、また必要に応じて家庭、寄宿舎、関係施設で共通理解を図る。	A	A	A	・問題行動や不登校については、ケース会議をはじめ、担任や保護者、寄宿舎や関係機関と連携し、共通理解や早期解決を図ることができた。また不登校が多いので、解消に向け努力する。 ・児童生徒会活動は集会や行事、選挙活動等で主たる任務を与え、主体的に活動させることができた。次年度は部門学部を超えた取組を図る。
		○児童生徒会を中心とした生徒会活動、委員会活動、集会、行事、選挙活動等児童生徒主体で計画させ、自己有用感の向上を図る。	A			
		○通学バスの安全な運行に迅速に対応する。また通学の方法について社会の変化を鑑みながら、家庭への配慮や個に応じた対応を考える。	B			
保健・安全	○安全で安心な通学ができるように実態に応じた指導・支援を行う。 ○安全・安心な環境づくりに努める。	○不審者情報、交通安全学習等を通して、正しい行動を考えさせる。また、いじめや性暴力について、早期発見、早期対応に尽力する。	A	A	A	・通学バスにおいては、保護者の要望や児童生徒の状況把握ができるように、教員と添乗員の連絡調整を強化する必要がある。 ・今年度いじめの認知はなかったが、アンケート等で、児童生徒間の細かいトラブルを含め把握し、早期対応を図る。
		○安心・安全な学校生活を送るために、緊急時対応訓練の意義を全体へ周知し、フレ・本番の2段階での緊急時対応シミュレーションの実施と振り返りを徹底する。	A			
		○各研修の内容や資料を見直し、全職員への漏れのない周知とスキルアップを図る。	B			
保健・安全	○幼児児童生徒が安全・安心な生活を送るための緊急対応訓練と職員研修の充実を図る。 ○幼児児童生徒が心と身体の健康を増進できるように学習の計画や実践に努める。 ○看護職員や医療関係者との連携強化による安全な医療の実施できるようにする。	○「性と健康に関する指導」を計画的に進め、自分で健康増進や安全を意識させていく。また、スクールカウンセラー事業を円滑に運営し、心の安定を図る。	A	A	B	・これまで学部ごとに異なっていた緊急対応マニュアルやシミュレーションの方法を、今年度、学校全体の統一した「学校の原則」を定めた。次年度は、「学校の原則」を意識できるシミュレーションを実施する。 ・「性と健康に関する指導」については、社会状況と生徒の実態から、内容の充実を図る。 ・好評だったスクールカウンセラー研修は、次年度も同様の内容で企画する。
		○医療的ケア校内委員会を中心に、保護者、看護職員、医療関係者と連携し、保護者の負担軽減に配慮した安全な医療的ケア体制整備・実施に努める。	B			
		○研修動画の視聴や手引きの活用、職員研修を通して、医療的ケアに関する知識と理解を深める。	A			
センター的機能	○地域の特別支援教育の中核として、幼児児童生徒等の適応性の向上を目指して、保護者や学校関係者等と連携した相談支援業務に専念する。	○対象幼児児童生徒等の様相を観察したり、聴力測定や教育的心理検査等を実施したりして、できる限り正確な状態を把握する。	A	A	A	・対象幼児児童生徒のサポートにつないでいくために、状態の把握、様相観察や検査だけでなく、面談を通してより詳細な状態像をつかむ必要がある。 ・対象幼児児童生徒の在籍校等における取組を前進させるために、在籍校等の考えや実践を把握し、大きな負担にならない取組を提案する。 ・特別支援学級における授業スキルの向上を目指して、今後も授業の参観を依頼していく。
		○対象幼児児童生徒の在籍校等と協議しながら、幼児児童生徒等の状態や今後の展望を鑑みた実現可能なサポートを進めていけるように努める。	A			
		○特別支援学級に在籍している児童生徒に応じた学習内容が構築され、指導が具現化されていくように、積極的に授業を参観して指導助言を図る。	A			
進路指導	○自立と社会参加を意識した進路指導の推進を図る。	○実習等の体験活動や進路学習を通して、幼小中高それぞれ段階で進路についての意識付けを行う。	B	A	A	・高等部を中心に現場実習等の体験活動を充実させることができた。小中高と段階的に進路を考えられるように、学習内容を工夫する。 ・関係機関と継続して連携を図り、進路実現につなげる。 ・進路説明会や事業所見学の充実を図ることができた。さらに、それぞれのニーズに合った情報発信が行えるよう、研修の方法等を見直す。
		○進路先や支援センター、行政などの関係機関との連携を図る。	A			
		○保護者、職員向けに説明会を実施し、進路情報の発信を行う。	A			
防災	○幼児児童生徒の実態及び、学校の実情に応じた、より安全な避難方法の検討や訓練の実施に取り組む。 ○幼児児童生徒や職員の災害用の備蓄食料・防災備品の管理方法を確立する。	○避難訓練の意義を共有したり、避難経路の検討をしたりしながら、実際に災害が起きた時を想定しながら避難訓練を実施する。	A	A	A	・消防署との連携を図りながら2度の訓練を実施した。今後も工事の状況を踏まえながら安全確保に努める。 ・今年度、実施した寄宿舎において引き渡しシミュレーションの反省を基に、より効率的な方法を定めていく。 ・防災用備品の使い方を、多くの職員が理解できるように研修の機会などを設定する。
		○大規模災害を想定し、保護者への引渡しまでの体制について検討し、対応シミュレーションを実施する。	A			
		○備蓄食料の内容や保管場所、賞味期限前の備蓄食料の交換の手順等の管理方法を検討する。	A			
寄宿舎	○寄宿舎、学校各部と連携を密にしなが、舎生の安全と健康を第一に考え、安心して充実した寄宿舎生活を送ることができるようになる。	○寄宿舎、学校各部の連携による組織的な支援体制により寄宿舎教育の充実を努める。	A	A	A	・円滑な寄宿舎運営が行えるように、学校の諸会議等における情報収集と、計画的な部会、棟会、全体会の実施を行う。 ・学校の防災環境部と連携し、避難訓練、災害時の引渡し訓練等、計画的に実施する。 ・今後も保護者や関係機関と連携して、個々の課題に適切に対応する。
		○防災、緊急・危機時の訓練を実施し、安全・安心な寄宿舎生活の充実を努める。	A			
		○保護者や関係機関と連携して共通理解を深め、舎生個々の課題に適切に対応する。	B			
事務	○予算の効率化・明確化を念頭に、幼児児童生徒の情報及び各部門学部の均衡を図った予算の執行に努める。 ○大規模工事について、保護者及び職員に細かな周知を行い情報共有に努める。	○経費節減を念頭に置きながらも、幼児児童生徒の実態・実情に応じた、弾力的かつスピード感のある予算執行に努める。	A	A	A	・新校舎建設等に関する諸課題解消に向けて、引き続き本庁各課との連携を図り、調整を進めていく。 ・施設設備の更新工事が進捗していく中で、幼児児童生徒の安心・安全に向けた取組とともに、より効率的・計画的な予算執行に努める。 ・教職員の服務手当関係、保護者への就学奨励費に関する対応をスピード感と丁寧さを両立し、信頼される事務室づくりを推進する。
		○大規模工事について、幼児児童生徒及び職員の安心安全を確保するよう努める。	A			
		○工事のみならず、職員への給与や服務等に関する対応、保護者への就学奨励費等に関する対応を、遅滞なく丁寧に行っていく。	A			

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体及び部門ごとの教育活動を整理し、学部間の交流を図りながら、共生社会に一番近い学校として運営する。 ・各自が計画的に受講した研修の内容を互いに共有したり、学校研究と関連づけた専門性向上研修を受講させたりすることで、教員の資質向上に努める。 ・時代の変化や実態にあうPTA活動のあり方の検討、及び、連絡アプリやHPを活用した保護者への情報発信に努める。 ・高等部を中心に現場実習等の体験活動を充実を図るとともに、幼稚部、小学部、中学部、高等部をとおして、将来をイメージした教育活動に努める。 ・新校舎建設の中、幼児児童生徒が安心・安全に過ごせるように環境整備に努めるとともに、関係機関・PTAと協働して防災対策を行い危機管理の充実を図る。
--

B	・地域の人権教育の学習会における貴校の教育実践の報告は、地域の小中学校にとって参考になり、ともに学ぶことができている。
B	・保護者への連絡に、今年度から使用を開始した連絡アプリを有効に使ってほしい。
A	・時代の変化や実態にあうPTA活動をめざして、役員と学校関係者が、PTA役員の選出方法や活動等を検討してほしい。
A	・不登校の生徒で、全く登校していない生徒は減少し、週2、3日登校できるようになった生徒が増えたことは、生徒の頑張りや教員の指導によるものとする。
B	・小・中学校に、入学するようになった医療的ケア児が、安心・安全に学校生活を過ごせるように、環境整備等における助言をお願いしたい。
A	・地域の小・中学校は、相談事業でいただいた特別支援教育の専門的な助言を、教育活動に生かすことができている。
A	特になし。
A	・生徒の防犯については、本人と保護者がそれぞれ自身で注意をできるように、安全安心メールの紹介を行ってほしい。
A	特になし。
A	特になし。

評価項目以外のものに関する意見

<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の増加に伴い、コロナ禍以前のように、学校全体で行う教育活動は難しいと考えるが、そのような中においても、子供の生き生きとした姿が見える学校であってほしい。
